

# JIS

UDC 669.1 : 543.062 : 546.82

G 1223

## 鉄及び鋼—チタン定量方法

JIS G 1223-1997

(2003 確認)

(2008 確認)

平成9年4月20日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS G 1223-1992は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、4,4'-ジアンチピリルメタン吸光光度法について、ISO 10230と整合させるとともに、銅及びモリブデン共存の影響対策を追加し、定量範囲を拡大している。

JIS G 1223には、次に示す附属書がある。

附属書1 4,4'-ジアンチピリルメタン吸光光度法

附属書2 チオシアン酸アンモニウム・トリオクチルホスフィンオキシド抽出吸光光度法

---

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和29.3.29 改正：平成9.4.20

官報公示：平成9.4.21

原案作成協力者：社団法人 日本鉄鋼連盟

審議部会：日本工業標準調査会 鉄鋼部会（部会長 木原 諄二）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 鉄及び鋼—チタン定量方法

G 1223-1997

Iron and steel—Methods for  
determination of titanium content

**序文** この規格は、附属書1に1991年に発行されたISO 10280 (Steel and iron—Determination of titanium content—Diantipyrylmethane spectrophotometric method)を基に、対応する部分については対応国際規格を翻訳し、対応国際規格には規定されていない銅及びモリブデン共存の影響対策を追加し、定量範囲を拡大している。

1. **適用範囲** この規格は、鉄及び鋼中のチタンの定量方法について規定する。
2. **引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。
  - JIS G 1201 鉄及び鋼の分析方法通則
  - JIS Z 8402 分析・試験の許容差通則
  - ISO 10280 Steel and iron—Determination of titanium content—Diantipyrylmethane spectrophotometric method
3. **一般事項** 定量方法に共通な一般事項は、JIS G 1201による。
4. **定量方法の区分** チタンの定量方法は、次のいずれかによる。
  - (1) **4,4'-ジアンチピリルメタン吸光光度法** この方法は、チタン含有率0.002 % (m/m)以上2.5 % (m/m)以下の試料に適用し、その定量方法は附属書1による。
  - (2) **チオシアン酸アンモニウム・トリオクチルホスフィンオキシド抽出吸光光度法** この方法は、チタン含有率0.005 % (m/m)以上0.10 % (m/m)以下の試料に適用し、その定量方法は附属書2による。ただし、この方法は、タングステン、タンタル又はニオブを含む試料には適用しない。